

市民の力で元気な能代に！



人の交流は、地域のにぎわいを生み、新たなものを生み出す。それがまちの活力になっていきます。だからこそ、市では「まちの主演は市民」との考えに立ち、市民の自発的なまちづくり活動を支援しています。

『けやき公園市民音楽祭』、『太鼓フェスティバル』、『けやき公園七夕まつり』。いずれも、能代を元気にしたいとの思いから、市民が立ち上げたイベントです。

どれも2～3年前から行われている新しいイベントですが、年々知名度もあがり、楽しみにしている人も多いのではないのでしょうか。5月29日には『けやき公園市民音楽祭』、6月5日には『太鼓フェスティバル』が行われます。

これらのイベントは、運営費の一部を市が補助しているものの、企画・運営はすべて市民の力で行われています。観客の皆さんもイベントを盛り上げてくれる重要な要素となります。ぜひ会場に足を運んでみませんか？

まちかど

ウォッシュング



能代カップ開催

5月3日(火)～5日(木)の3日間、総合体育館で能代カップが開催されました。たくさんの観客が見守る中、熱戦が繰り広げられました。



風の松原を松くい虫から守ろう

5月8日(日)、「風の松原を守る市民ボランティア大会」が実施されました。市民の財産「風の松原」を守るために、大勢の人たちが枯れ枝の搬出やゴミ拾いを行いました。

相馬神社は馬頭観音を主神とします。本殿には花崗岩に三面六臂の馬頭観音が浮き彫りにされて鎮座しています。かつてのお祭りは八月に行われましたが、そのときは境内に相撲場をつくって、若者たちが力比べに興じたといえます。にぎやかなもので、長崎の十文店が出張してきて子どもたちに飴などを売ったそうです。なつかしい思い出です。

(古内)

前回紹介した写真の右側に横長の絵馬が掛けてあります。赤馬を真ん中にして、黒馬が左右に描かれています。黒馬の色が消えかかっていますが、慶応三年（一八六七）五月五日願主平野重三郎とあります。相染森の人ではありません。節句の日に遠くからお参りに来たのでしょうか。今回の絵馬は、前回の写真の左側に見える絵馬です。昭和五年五月五日に悪土町の田中万次郎の奉納です。悪土町は又右衛門橋周辺のことでしょうか。黒馬二頭に紅白の紙垂と腹帯を分けて結び、祈禱札を挟んだ矢に御幣を下げています。腹帯には稲妻のような模様を描き入れ、いかにも奉納馬らしく描き分けています。額縁のない小絵馬ですが、様式が整っていますし、馬の姿も躍動感を失わずに描き上げています。このほかに晴れを祈る赤馬や、神馬の白馬の絵馬もあります。

馬の絵(九) 「相染森・神馬奉納」



のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

70